保護関係のウィンドウとダイアログボックスの説明

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/data-protection/reference_resource_pools_page.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

保護関係のウィンドウとダイアログ ボックスの説明 1
Active IQ Unified Manager の リソース プール ページについて 1
コマンド ボタン 1
[Resource Pools]リスト 1
[Members]リストのコマンド ボタン 2
[Members]リスト 2
Active IQ Unified Manager の「リソース プールの作成」ダイアログボックスを使用します 4
リソース プール名 4
説明 5
Members 5
コマンド ボタン 5
Active IQ Unified Manager の「リソース プール編集」ダイアログボックスを使用する 5
テキスト ボックス 5
コマンド ボタン 6
Active IQ Unified Manager のアグリゲートダイアログボックスを使用する 6
コマンド ボタン 6
[アグリゲート]リスト 6
Active IQ Unified Manager のジョブページについて 9
コマンド ボタン 9
[Jobs]リスト 9
Active IQ Unified Manager のジョブ詳細ページについて 11
ジョブの概要 11
コマンド ボタン 12
[Job tasks]リスト 12
Active IQ Unified Manager の詳細セカンダリ設定ダイアログボックスを使用する 13
コマンド ボタン 15
Active IQ Unified Manager の「詳細宛先設定」ダイアログボックスを使用する 15
スペース ギャランティ 15
Active IQ Unified Manager の復元ダイアログボックスを使用する 16
リストア元 16
リストアする項目を選択 16
リストア先 17
コマンド ボタン 17
Active IQ Unified Manager の「ディレクトリの参照」ダイアログボックスを使用する 18
コマンド ボタン 18
Active IQ Unified Manager の保護の構成ダイアログボックスを使用する 19
ソースタブ 19
SnapMirrorタブ 20
SnapVaultタブ 22

コマンド ボタン . . . 24
Active IQ Unified Manager の「スケジュールの作成」ダイアログボックスを使用する . . . 24
Active IQ Unified ManagerでCreate SnapMirror Policyダイアログボックスを使用します . . . 25
コマンド ボタン . . . 26
Active IQ Unified Manager の「SnapVault ポリシーの作成」ダイアログボックスを使用する . . . 26
Active IQ Unified Manager で保護関係を編集する . . . 28
デスティネーション情報 . . . 28
コマンド ボタン . . . 29
Active IQ Unified Manager の「初期化/更新」ダイアログボックスを使用する . . . 29
転送オプションタブ . . . 29
[ソース Snapshot コピー]タブ . . . 30
コマンド ボタン . . . 30
Active IQ Unified Manager の再同期ダイアログボックスを使用する . . . 31
再同期オプションタブ . . . 31
[ソース Snapshot コピー]タブ . . . 31
コマンド ボタン . . . 31
Active IQ Unified Manager
の「ソーススナップショットコピーの選択」ダイアログボックスを使用します . . . 32
デフォルト . . . 32
既存の Snapshot コピー . . . 33
コマンド ボタン . . . 34
Active IQ Unified Manager での逆再同期 . . . 34
逆再同期前 . . . 34
逆再同期後 . . . 35
コマンド ボタン . . . 35
関係を表示する：Active IQ Unified Manager のすべての関係ビュー . . . 35
Active IQ Unified Manager で過去 1 か月の転送状況ビューを表示する . . . 42
関係の表示：過去 1 か月の転送レートビュー（Active IQ Unified Manager） . . . 43

保護関係のウィンドウとダイアログ ボックスの説明

Active IQ Unified Manager の リソース プール ページについて

[リソース プール]ページには、既存のリソース プールとそのメンバーが表示され、プロビジョニングのためにリソース プールを作成、監視、および管理できます。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 作成

  [リソース プールの作成]ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスでは、リソース プールを作成できます。

- 編集

  作成するリソース プールの名前と説明を編集できます。

- 削除

  1つ以上のリソース プールを削除できます。

[Resource Pools]リスト

[Resource Pools]リストには、既存のリソース プールのプロパティが表形式で表示されます。

- リソース プール

  リソース プールの名前が表示されます。

- 概要

  リソース プールの説明が表示されます。

- **SnapLock**タイプ

  リソース プール内のアグリゲートで使用されているSnapLockタイプが表示されます。有効な値は、Compliance、Enterprise、およびNon-SnapLockです。リソース プールには、同じSnapLockタイプのアグリゲートのみを含めることができます。

- 総容量

  リソース プールの合計容量（MB、GBなど）が表示されます。

- 使用容量

  リソース プールで使用されているスペース（MB、GBなど）が表示されます。

- 利用可能な容量

  リソース プールで使用可能なスペース（MB、GBなど）が表示されます。

- 使用済み %

  リソース プールで使用されているスペースの割合が表示されます。

[Members]リストのコマンド ボタン

[Members]リストの各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 追加

  リソース プールにメンバーを追加できます。

- 削除

  リソース プールから1つ以上のメンバーを削除できます。

[Members]リスト

[Members]リストには、選択したリソース プールのメンバーとそのプロパティが表形式で表示されます。

- ステータス

  メンバーアグリゲートの現在の状態を表示します。ステータスはクリティカル（）、エラー（）、警告（）、または正常（）です。

- アグリゲート名

  メンバー アグリゲートの名前が表示されます。

- 状態

  アグリゲートの現在の状態が表示されます。次のいずれかになります。

  - Offline

    読み取り / 書き込みアクセスが許可されていません。

  - Online

    このアグリゲートでホストされているボリュームへの読み取りおよび書き込みアクセスが許可されます。

  - 制限

    一部の処理（パリティの再構築など）は許可されますが、データ アクセスは許可されません。

  - 作成中

    アグリゲートを作成中です。

- 削除中

  アグリゲートを削除中です。

- 失敗

  アグリゲートをオンラインにできません。

- フリーズ

  アグリゲートが（一時的に）要求に応答していません。

- 不整合

  アグリゲートが破損とマークされています。テクニカル サポートに連絡する必要があります。

- Iron 使用不可

  アグリゲートで診断ツールを実行できません。

- マウント中

  アグリゲートがマウント中です。

- Partial

  アグリゲート用のディスクが少なくとも1つ見つかりましたが、複数のディスクが不足しています。

- 休止中

  アグリゲートを休止中です。

- 休止

  アグリゲートが休止されています。

- リバート済み

  アグリゲートのリバートが完了しています。

- アンマウント

  アグリゲートがアンマウントされました。

- アンマウント中

  アグリゲートをオフラインにしています。

- 不明

  集約は検出されましたが、集約情報はまだUnified Managerサーバーによって取得されていません。

デフォルトでは、この列は表示されません。

- クラスタ

  アグリゲートが属するクラスタの名前が表示されます。

- ノード

  アグリゲートが配置されているノードの名前が表示されます。

- 総容量

  アグリゲートの合計容量（MB、GBなど）が表示されます。

- 使用容量

  アグリゲートで使用されているスペース（MB、GBなど）が表示されます。

- 利用可能な容量

  アグリゲートで使用可能なスペース（MB、GBなど）が表示されます。

- 使用済み %

  アグリゲートで使用されているスペースの割合が表示されます。

- ディスクの種類

  RAID構成タイプが表示されます。次のいずれかになります。

  - RAID0：すべてのRAIDグループのタイプがRAID 0です。
  - RAID4：すべてのRAIDグループのタイプがRAID 4です。
  - RAID-DP：すべての RAID グループのタイプは RAID-DP です。
  - RAID-TEC：すべての RAID グループのタイプは RAID-TEC です。
  - Mixed RAID：アグリゲートにRAIDタイプ（RAID 0、RAID 4、RAID-DP、RAID-TEC）の異なる複数のRAIDグループが含まれています。デフォルトでは、この列は表示されません。

Active IQ Unified Manager の「リソース プールの作成」ダイアログボックスを使用します

[リソース プールの作成]ダイアログ ボックスを使用すると、新しいリソース プールの名前と説明を指定して、そのリソース プールに対してアグリゲートを追加および削除することができます。

リソース プール名

テキスト ボックスを使用して、リソース プールを作成するための次の情報を追加できます。

リソース プール名を指定できます。

説明

リソース プールの説明を指定できます。

Members

リソース プールのメンバーが表示されます。メンバーを追加および削除することもできます。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 追加

  [アグリゲート]ダイアログ ボックスが開きます。ここでは、特定のクラスタのアグリゲートをリソース プールに追加できます。さまざまなクラスタからアグリゲートを追加できますが、同じアグリゲートを複数のリソース プールに追加することはできません。

- 削除

  選択したアグリゲートをリソース プールから削除できます。

- 作成

  リソース プールを作成します。このボタンは、「リソース プール名」または「概要」フィールドに情報が入力されるまで有効になりません。

- キャンセル

  変更内容を破棄して、[リソース プールの作成]ダイアログ ボックスを閉じます。

Active IQ Unified Manager の「リソース プール編集」ダイアログボックスを使用する

[リソース プールの編集]ダイアログ ボックスを使用すると、既存のリソース プールの名前と説明を変更できます。たとえば、元の名前や説明が正確でないか内容に誤りがある場合に、より正確な内容に変更することができます。

テキスト ボックス

各テキスト ボックスを使用して、選択したリソース プールに関する次の情報を変更できます。

- リソース プール名

  新しい名前を入力できます。

- 概要

  新しい説明を入力できます。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 保存

  リソース プールの名前と説明の変更内容を保存します。

- キャンセル

  変更内容を破棄して、[リソース プールの編集]ダイアログ ボックスを閉じます。

Active IQ Unified Manager のアグリゲートダイアログボックスを使用する

[アグリゲート]ダイアログ ボックスでは、リソース プールに追加するアグリゲートを選択できます。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 追加

  選択したアグリゲートをリソース プールに追加します。少なくとも1つのアグリゲートが選択されるまで、「追加」ボタンは有効になりません。

- キャンセル

  変更内容を破棄して、[アグリゲート]ダイアログ ボックスを閉じます。

[アグリゲート]リスト

[アグリゲート]リストには、監視対象のアグリゲートの名前とプロパティが表形式で表示されます。

- ステータス

  ボリュームの現在の状態を表示します。ステータスはクリティカル（）、エラー（）、警告（）、または正常（）です。

  ステータスにカーソルを合わせると、ボリュームに対して生成されたイベントに関する詳細を確認できます。

- アグリゲート名

  アグリゲートの名前が表示されます。

- 状態

  アグリゲートの現在の状態が表示されます。次のいずれかになります。

- Offline

  読み取り / 書き込みアクセスが許可されていません。

- 制限

  一部の処理（パリティの再構築など）は許可されますが、データ アクセスは許可されません。

- Online

  このアグリゲートでホストされているボリュームへの読み取りおよび書き込みアクセスが許可されます。

- 作成中

  アグリゲートを作成中です。

- 削除中

  アグリゲートを削除中です。

- 失敗

  アグリゲートをオンラインにできません。

- フリーズ

  アグリゲートが（一時的に）要求に応答していません。

- 不整合

  アグリゲートが破損とマークされています。テクニカル サポートに連絡する必要があります。

- Iron 使用不可

  アグリゲートで診断ツールを実行できません。

- マウント中

  アグリゲートがマウント中です。

- Partial

  アグリゲート用のディスクが少なくとも1つ見つかりましたが、複数のディスクが不足しています。

- 休止中

  アグリゲートを休止中です。

- 休止

  アグリゲートが休止されています。

- リバート済み

  アグリゲートのリバートが完了しています。

- アンマウント

  アグリゲートがオフラインです。

- アンマウント中

  アグリゲートをオフラインにしています。

- 不明

  集約は検出されましたが、集約情報はまだUnified Managerサーバーによって取得されていません。

- クラスタ

  アグリゲートが配置されているクラスタの名前が表示されます。

- ノード

  アグリゲートが含まれるストレージ コントローラの名前が表示されます。

- 総容量

  アグリゲートの合計データ サイズ（MB、GBなど）が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- コミット済み容量

  アグリゲート内の全ボリュームに対してコミットされたスペースの合計（MB、GBなど）が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- 使用容量

  アグリゲートで使用されているスペース（MB、GBなど）が表示されます。

- 利用可能な容量

  アグリゲートでデータに使用できるスペース（MB、GBなど）が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- 利用可能 %

  アグリゲートでデータに使用できるスペースの割合が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- 使用済み %

  アグリゲートでデータに使用されているスペースの割合が表示されます。

- **RAID**タイプ

選択したボリュームのRAIDタイプが表示されます。RAIDタイプは、RAID 0、RAID 4、RAID-DP、RAID-TEC、Mixed RAIDのいずれかです。

Active IQ Unified Manager のジョブページについて

[ジョブ]ページでは、実行中のすべてのパートナー アプリケーション保護ジョブの現在のステータスとその他の情報、および完了したジョブを表示できます。この情報から、まだ実行中のジョブや、ジョブが成功したかどうかを確認できます。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- アボート

  選択したジョブを中止します。このオプションは、選択したジョブが実行中の場合にのみ選択できます。

- リトライ

  保護構成または保護関係操作タイプの失敗したジョブを再起動します。失敗したジョブは一度に1つしか再試行できません。失敗したジョブが複数選択されている場合、「再試行」ボタンは無効になります。失敗したストレージサービスジョブを再試行することはできません。

- 更新

  ジョブとその関連情報のリストを更新します。

[Jobs]リスト

[Jobs]リストには、進行中のジョブのリストが表形式で表示されます。デフォルトでは、過去1週間に生成されたジョブのみが表示されます。列のソートやフィルタリングを使用して、表示されるジョブをカスタマイズできます。

- ステータス

  ジョブの現在のステータスを表示します。ステータスはエラー（⚠️）または正常（✅）です。

- ジョブ **ID**

  ジョブのID番号が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

  ジョブID番号は一意であり、ジョブの開始時にサーバによって割り当てられます。列フィルタのテキストボックスにジョブID番号を入力することで、特定のジョブを検索できます。

- 名前

  ジョブの名前が表示されます。

- タイプ

  ジョブ タイプが表示されます。ジョブ タイプは次のとおりです。

- クラスター取得

  ワークフロー自動化ジョブがクラスターを再検出しています。

- 保護設定

  保護ジョブは、cron スケジュール、SnapMirror ポリシーの作成など、Workflow Automation ワークフローを開始しています。

- 保護関係の操作

  保護ジョブがSnapMirror処理を実行しています。

- 保護ワークフローチェーン

  ワークフロー自動化ジョブは、複数のワークフローを実行します。

- 復元

  リストア ジョブを実行しています。

- クリーンアップ

  リストアが不要となったストレージ サービス メンバーのアーティファクトをジョブがクリーンアップしています。

- 適合

  ジョブがストレージ サービス メンバーの設定をチェックして準拠していることを確認しています。

- 破棄

  ジョブがストレージ サービスを削除しています。

- インポート

  ジョブが管理対象外のストレージ オブジェクトを既存のストレージ サービスにインポートしています。

- 変更

  ジョブが既存のストレージ サービスの属性を変更しています。

- 購読する

  ジョブがストレージ サービスにメンバーをサブスクライブしています。

- 購読解除

  ジョブがストレージ サービスからメンバーをサブスクライブ解除しています。

- アップデート

保護更新ジョブを実行しています。

- **WFA**設定

  ワークフロー自動化ジョブがクラスタ認証情報をプッシュし、データベースキャッシュを同期しています。

- 状態

  ジョブの実行状態が表示されます。状態のオプションは次のとおりです。

  - 中止

    ジョブが中止されました。

  - 中止

    ジョブの中止処理が進行中です。

  - 完了

    ジョブが完了しました。

  - 実行中

    ジョブが実行中です。

- 送信時刻

  ジョブが送信された時刻が表示されます。

- 期間

  ジョブの完了までにかかった時間が表示されます。この列はデフォルトで表示されます。

- 完了時間

  ジョブが終了した時刻が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

Active IQ Unified Manager のジョブ詳細ページについて

[ジョブの詳細]ページでは、特定の保護ジョブ タスクのステータスやその他の情報を確認できます。実行中のタスク、キューに登録されたタスク、完了したタスクの情報が表示されます。この情報は、保護ジョブの進捗の監視やジョブが失敗した場合のトラブルシューティングに役立ちます。

ジョブの概要

ジョブの概要として次の情報が表示されます。

- ジョブ ID

- Type
- 状態
- 送信時刻
- 完了時刻
- Duration

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 更新

  タスク リストと各タスクに関連付けられているプロパティを更新します。

- ジョブの表示

  [ジョブ]ページに戻ります。

[Job tasks]リスト

[Job tasks]リストには、特定のジョブに関連付けられているすべてのタスクと各タスクに関連するプロパティが表形式で表示されます。

- 開始時刻

  タスクが開始された日時が表示されます。デフォルトでは、この列に基づいて新しいタスクから古いタスクの順に情報が表示されます。

- タイプ

  タスクのタイプが表示されます。

- 状態

  特定のタスクの状態が表示されます。

  - 完了

    完了したタスクです。

  - キューに追加済み

    実行待ちのタスクです。

  - 実行中

    実行中のタスクです。

  - 待機中

ジョブが送信され、一部の関連タスクがキューへの登録と実行を待機しています。

- ステータス

  タスクのステータスが表示されます。

  - エラー （）

    失敗したタスクです。

  - **Normal** （）

    成功したタスクです。

  - スキップされました（）

    失敗したために後続のタスクがスキップされたタスクです。

- 期間

  タスクが開始されてからの経過時間が表示されます。

- 完了時間

  タスクが完了した時刻が表示されます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- タスクID

  ジョブの個々のタスクを識別するGUIDが表示されます。この列はソートとフィルタリングが可能です。デフォルトでは、この列は表示されません。

- 依存関係の順序

  グラフ内のタスクの順序を表す整数が表示されます。最初のタスクには0が割り当てられます。デフォルトでは、この列は表示されません。

- タスク詳細ペイン

  ジョブの各タスクについて、タスクの名前、タスクの説明、タスクが失敗した理由などの追加情報が表示されます。

- タスクメッセージペイン

  選択したタスクに固有のメッセージが表示されます。エラーの理由や推奨される解決方法などが含まれます。タスク メッセージは、すべてのタスクで表示されるとは限りません。

Active IQ Unified Manager の詳細セカンダリ設定ダイアログ ボックスを使用する

[詳細なセカンダリ設定]ダイアログ ボックスでは、セカンダリ ボリュームのバージョンに依存しないレプリケーション、複数コピー バックアップ、およびスペース関連設定を

有効にすることができます。[詳細なセカンダリ設定]ダイアログ ボックスは、現在の設定を変更して有効または無効にする場合に使用します。

スペース関連設定には、重複排除、データ圧縮、自動拡張、スペース ギャランティなど、格納できるデータの量を最大限に増やすための設定が含まれます。

このダイアログ ボックスには次のフィールドがあります。

- バージョン柔軟レプリケーションを有効にする

  バージョンに依存しないレプリケーションでSnapMirrorを有効にします。バージョンに依存しないレプリケーションでは、デスティネーション ボリュームでソース ボリュームよりも前のバージョンのONTAPが実行されている場合も、ソース ボリュームをSnapMirrorで保護することができます。

  - Enable Backup

    バージョンに依存しないレプリケーションが有効な場合に、SnapMirrorソースのデータの複数のSnapshotコピーをSnapMirrorデスティネーションに転送して保持することができます。

- 重複排除を有効にする

  重複するデータ ブロックを排除してスペースを削減できるように、SnapVault関係のセカンダリ ボリュームで重複排除を有効にします。重複排除は、スペース削減率が10%以上で、データが頻繁には上書きされない場合に効果を期待できます。重複排除は、仮想環境、ファイル共有、およびバックアップのデータによく使用されます。この設定はデフォルトでは無効になっています。有効にすると、転送が完了するたびにこの処理が開始されます。

  - 圧縮を有効にする

    透過的なデータ圧縮を有効にします。圧縮は、スペース削減率が10%以上で、潜在的なオーバーヘッドを許容でき、ピーク時以外の時間帯に圧縮を完了できるだけの十分なシステム リソースがある場合に効果を期待できます。SnapVault関係では、この設定はデフォルトで無効になっています。圧縮は、重複排除を選択した場合にのみ使用できます。

  - インラインで圧縮

    データをディスクに書き込む前に圧縮することで、即座に容量を節約できます。ピーク時のシステム利用率が50%以下で、かつピーク時にもシステムが新規書き込みや追加のCPU処理に対応できる場合は、インライン圧縮を使用することをお勧めします。この設定は、「`Enable Compression`」が選択されている場合にのみ利用可能です。

- 自動成長を有効にする

  空きスペースの割合が指定したしきい値を下回ったときに、関連付けられているアグリゲートに使用可能なスペースが残っていれば、デスティネーション ボリュームを自動的に拡張することができます。

- 最大サイズ

  ボリュームを最大で何パーセントまで拡張できるようにするかを設定します。デフォルトでは、ソース ボリュームのサイズよりも20%まで大きくできます。現在のボリューム サイズがこの値以上の場合、そのボリュームは自動的に拡張されません。このフィールドは、自動拡張の設定を有効にした場合にのみ有効になります。

- 増分サイズ

  ボリュームの自動拡張で何パーセントずつ拡張するかを指定します。ソース ボリュームの割合で示した最大サイズに達するまで、この割合で自動的に拡張されます。

- スペース保証

  データ転送が常に成功するようにセカンダリ ボリュームに十分なスペースを割り当てます。スペース ギャランティの設定は次のいずれかです。

  - ファイル
  - Volume
  - なし + 例えば、合計50 GBのファイルを含む200 GBのボリュームがあったとしても、それらのファイルには10 GBのデータしか含まれていない場合があります。ボリューム保証では、ソースの内容に関わらず、宛先ボリュームに200 GBが割り当てられます。ファイル保証では、ソース上のファイル用に十分なスペースを確保するために50 GBが割り当てられます。このシナリオで「なし」を選択すると、ソース上のファイルデータが実際に使用するスペースとして、宛先には10 GBのみが割り当てられます。

スペース ギャランティは、デフォルトでは[Volume]に設定されています。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 適用する

  選択した効率設定を保存し、[保護の設定]ダイアログボックスで*[適用]*をクリックすると適用されます。

- キャンセル

  変更内容を破棄して[詳細なデスティネーション設定]ダイアログ ボックスを閉じます。

Active IQ Unified Manager の「詳細宛先設定」ダイアログボックスを使用する

[詳細なデスティネーション設定]ダイアログ ボックスを使用すると、デスティネーション ボリュームでスペース ギャランティの設定を有効にすることができます。詳細設定は、ソースではスペース ギャランティが無効になっている状況において、デスティネーションでスペース ギャランティを有効にする場合に使用します。SnapMirror関係の重複排除、圧縮、および自動拡張の設定はソース ボリュームから継承され、変更することはできません。

スペース ギャランティ

データ転送が常に成功するようにデスティネーション ボリュームに十分なスペースを割り当てます。スペース ギャランティの設定は次のいずれかです。

- ファイル

- Volume
- None

例えば、合計50GBのファイルを含む200GBのボリュームがあったとしても、それらのファイルに含まれるデータ量は10GBしかない場合などが考えられます。ボリューム保証では、ソースの内容に関わらず、デスティネーション ボリュームに200 GBが割り当てられます。ファイル保証では、デスティネーションにソース ファイル用の十分なスペースが確保されるように50GBが割り当てられます。このシナリオで「なし」を選択すると、ソースのファイル データが実際に使用するスペースとして、デスティネーションには10GBのみが割り当てられます。

スペース ギャランティは、デフォルトでは[Volume]に設定されています。

Active IQ Unified Manager の復元ダイアログボックスを使用する

[リストア]ダイアログ ボックスを使用すると、特定のSnapshotコピーからボリュームにデータをリストアできます。

リストア元

[リストア元]領域では、データのリストア元を指定できます。

- ボリューム

  データのリストア元となるボリュームを指定します。デフォルトでは、リストア操作を開始したボリュームが選択されます。リストア操作を開始したボリュームと保護関係にあるすべてのボリュームを表示するドロップダウン リストから別のボリュームを選択することもできます。

- スナップショットコピー

  データのリストアに使用するSnapshotコピーを指定します。デフォルトでは最新のSnapshotコピーが選択されます。ドロップダウン リストから別のSnapshotコピーを選択することもできます。[Snapshot コピー]リストの内容は、選択したボリュームに応じて変わります。

- 最大**995**個のファイルとディレクトリを一覧表示します

  デフォルトでは、最大995個のオブジェクトがリストに表示されます。選択したボリューム内のすべてのオブジェクトを表示する場合は、このチェックボックスを選択解除できます。アイテムの数が非常に多い場合は、この処理が完了するまでに時間がかかることがあります。

リストアする項目を選択

[リストアする項目を選択]領域では、リストアの対象として、ボリューム全体または特定のファイルやフォルダを選択できます。最大10個のファイル、フォルダ、または両者の組み合わせを選択できます。アイテムを最大数まで選択すると、アイテム選択チェック ボックスが無効になります。

- パスフィールド

  復元したいデータのパスを表示します。復元したいフォルダとファイルのある場所へ移動することも、パスを直接入力することもできます。パスを選択または入力するまで、このフィールドは空です。パスを選

択した後に をクリックすると、ディレクトリ構造内で1つ上の階層に移動します。

- フォルダとファイルの一覧

  入力したパスの内容が表示されます。デフォルトでは、最初にルート フォルダが表示されます。フォルダ名をクリックすると、そのフォルダの内容が表示されます。

リストアするアイテムは次のように選択できます。

- [パス]フィールドに特定のファイル名を指定したパスを入力すると、指定したファイルが[フォルダ / ファイル]に表示されます。
- 特定のファイルを指定せずにパスを入力すると、フォルダの内容が[フォルダ / ファイル]リストに表示され、最大10個のファイル、フォルダ、または両者の組み合わせをリストア対象として選択できます。

  フォルダに995個を超えるアイテムが含まれている場合、表示するアイテム数が多すぎることを示すメッセージが表示されます。操作を続行すると、指定されたフォルダ内のすべてのアイテムが復元されます。選択したボリューム内のすべてのオブジェクトを表示する場合は、「`List maximum of 995 files and directories`」チェックボックスの選択を解除できます。



NTFSファイル ストリームはリストアできません。

リストア先

[リストア先]領域では、データのリストア先を指定できます。

- **Volume_Name**内の元の場所

  選択したデータを、データのバックアップが行われたソース上のディレクトリにリストアします。

- 代替場所

  選択したデータを新しい場所にリストアします。

  - リストア パス

    選択したデータを復元するための代替パスを指定します。パスはすでに存在している必要があります。「参照」ボタンを使用してデータの復元先の場所に移動するか、次の形式 `cluster://svm/volume/path`を使用してパスを手動で入力できます。

  - ディレクトリ階層を維持

    チェックを入れると、元のファイルまたはディレクトリの構造が保持されます。例えば、ソースが /A/B/C/myFile.txt で、宛先が /X/Y/Z の場合、Unified Manager は宛先で次のディレクトリ構造を使用してデータを復元します：/X/Y/Z/A/B/C/myFile.txt。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- キャンセル

選択内容を破棄して、[リストア]ダイアログ ボックスを閉じます。

- 復元

  選択した内容でリストア プロセスを開始します。

Active IQ Unified Manager の「ディレクトリの参照」ダイアログボックスを使用する

[ディレクトリの参照]ダイアログ ボックスは、元のソースとは別のクラスタおよびSVM上のディレクトリにデータをリストアする場合に使用します。デフォルトでは、元のソース クラスタとボリュームが選択されます。

[ディレクトリの参照]ダイアログ ボックスでは、データのリストア先となるクラスタ、SVM、ボリューム、およびディレクトリ パスを選択できます。

- クラスタ

  リストア先として指定できるクラスタのリストが表示されます。デフォルトでは元のソース ボリュームのクラスタが選択されます。

- **SVM**ドロップダウンリスト

  選択したクラスタで使用可能なSVMのリストが表示されます。デフォルトでは元のソース ボリュームのSVMが選択されます。

- ボリューム

  選択したSVM内の読み書き可能なボリュームがすべて表示されます。ボリュームは、名前や使用可能なスペースでフィルタできます。最もスペースが大きいボリュームから順に一覧表示されます。デフォルトでは元のソース ボリュームが選択されます。

- ファイルパス テキスト ボックス

  データのリストア先となるファイル パスを入力できます。すでに存在するパスを入力する必要があります。

- 名前

  選択したボリュームで使用可能なフォルダの名前が表示されます。名前リストでフォルダをクリックすると、サブフォルダが存在する場合は、そのサブフォルダが表示されます。フォルダ内のファイルは表示されません。フォルダを選択した後に  をクリックすると、ディレクトリ構造内で1つ上の階層に移動します。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- ディレクトリを選択

選択内容を適用して、[ディレクトリの参照]ダイアログ ボックスを閉じます。ディレクトリを選択していない場合は、このボタンが無効になります。

- キャンセル

  選択内容を破棄して、[ディレクトリの参照]ダイアログ ボックスを閉じます。

Active IQ Unified Manager の保護の構成ダイアログボックスを使用する

[保護設定]ダイアログ ボックスを使用すると、クラスタ上の読み取り、書き込み、データ保護のすべてのボリュームに対してSnapMirror関係とSnapVault関係を作成して、ソース ボリュームまたはプライマリ ボリューム上のデータをレプリケートできます。

ソースタブ

- トポロジー表示

  作成する関係が視覚的に表示されます。デフォルトでは、トポロジ内のソースが強調表示されます。

- ソース情報

  選択したソース ボリュームに関する詳細が表示されます。次の情報が含まれます。

  - Source Cluster Name
  - ソースSVM名
  - Cumulative Volume Total Size

    選択したすべてのソース ボリュームの合計サイズが表示されます。

  - Cumulative Volume Used Size

    選択したすべてのソース ボリュームの累積使用サイズが表示されます。

  - ソース ボリューム

    次の情報がテーブルに表示されます。

    - ソース ボリューム

      選択したソース ボリュームの名前が表示されます。

    - Type

      ボリューム タイプが表示されます。

    - SnapLockタイプ

      ボリュームのSnapLockタイプが表示されます。「Compliance」、「Enterprise」「Non-SnapLock」のいずれかです。

- Snapshot コピー

  ベースライン転送に使用されるSnapshotコピーが表示されます。ソース ボリュームが読み取り/書き込みボリュームの場合、[Snapshot copy]列の[Default]の値は、新しいSnapshotコピーがデフォルトで作成され、ベースライン転送に使用されることを示します。ソース ボリュームがデータ保護ボリュームの場合、[Snapshot copy]列の[Default]の値は、新しいSnapshotコピーが作成されず、既存のすべてのSnapshotコピーがデスティネーションに転送されることを示します。[Snapshot copy]の値をクリックすると、ベースライン転送に使用する既存のSnapshotコピーを選択するためのSnapshotコピーのリストが表示されます。ソース タイプがデータ保護の場合、別のデフォルトのSnapshotコピーを選択することはできません。

SnapMirrorタブ

保護関係のデスティネーション クラスタ、Storage Virtual Machine（SVM）、アグリゲート、およびSnapMirror関係を作成する際のデスティネーションの命名規則を指定できます。SnapMirrorポリシーとスケジュールを指定することもできます。

- トポロジー表示

  作成する関係が視覚的に表示されます。デフォルトでは、トポロジ内のSnapMirrorのデスティネーション リソースが強調表示されます。

- デスティネーション情報

  保護関係のデスティネーション リソースを選択できます。

  - 高度なリンク

    SnapMirror関係の作成時に[詳細なデスティネーション設定]ダイアログ ボックスを表示します。

  - クラスタ

    保護デスティネーション ホストとして使用できるクラスタが表示されます。このフィールドは必須です。

  - ストレージ仮想マシン（SVM）

    選択したクラスターで使用可能なSVMを一覧表示します。SVMリストを作成する前に、クラスターを選択する必要があります。この項目は必須です。

  - Aggregate

    選択したSVMで使用可能なアグリゲートの一覧を表示します。アグリゲートリストを作成する前に、クラスターを選択する必要があります。この項目は必須です。アグリゲートリストには、以下の情報が表示されます。

    - 順位

      複数のアグリゲートがデスティネーションの要件をすべて満たす場合、この順位は、次の条件に従ってアグリゲートを表示する優先順位を示します。

      A. ソース ボリュームのノードとは異なるノードに配置されているアグリゲートが優先され、障害ドメインの分離が可能になります。

B. ボリューム数が少ないノード上のアグリゲートが優先され、クラスタ内のノード全体での負荷分散が可能になります。

C. 他のアグリゲートよりも空きスペースの多いアグリゲートが優先され、容量の分散が可能になります。順位1は、この3つの条件に従っているアグリゲートが最も優先されることを示します。

- アグリゲート名

  アグリゲートの名前

- 使用可能容量
- データ用のアグリゲートで使用できるスペースの量
- リソース プール

  アグリゲートが属するリソース プールの名前

◦ 命名規則

デスティネーションボリュームに適用されるデフォルトの命名規則を指定します。用意されている命名規則をそのまま使用することも、カスタムの命名規則を作成することもできます。命名規則には、%C、%M、%V、および%Nの属性を指定できます。%Cはクラスタ名、%MはSVM名、%Vはソースボリューム、%Nはトポロジデスティネーションノード名です。

命名規則の入力内容が無効な場合、該当欄は赤色で強調表示されます。「プレビュー名」リンクをクリックすると、入力した命名規則のプレビューが表示され、テキストフィールドに命名規則を入力するとプレビューテキストが動的に更新されます。関係が作成されると、デスティネーション名に001～999のサフィックスが追加され、プレビュー テキストのnnnがこのサフィックスに置き換わります。001が最初に割り当てられ、002が2番目に割り当てられます（以降も同様）。

- リレーションシップ設定

保護関係で使用する最大転送速度、SnapMirrorポリシー、およびスケジュールを指定できます。

◦ 最大転送速度

ネットワークを介してクラスター間でデータが転送される最大速度を指定します。最大転送速度を使用しない場合、関係間のベースライン転送は無制限になります。

◦ SnapMirror ポリシー

関係のONTAP SnapMirrorスケジュールを示します。デフォルトはDPDefaultです。

◦ Create Policy

[SnapMirror ポリシーの作成]ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスでは、新しいSnapMirrorポリシーを作成して使用できます。

◦ SnapMirror スケジュール

関係のONTAP SnapMirrorスケジュールを示します。スケジュールは、「None」、「5min」、「8hour」、「daily」、「hourly」、「weekly」のいずれかに設定できます。デフォルトは「None」で、関係にスケジュールが関連付けられません。スケジュールが設定されていない関係に

ついては、ストレージ サービスに属している場合を除き、遅延ステータスの値は報告されません。

- スケジュールを作成

  [スケジュールの作成]ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスでは、新しいSnapMirrorスケジュールを作成できます。

SnapVaultタブ

保護関係のセカンダリ クラスター、SVM、およびアグリゲートを指定できます。また、SnapVault 関係を作成する際に、セカンダリ ボリュームの命名規則を指定することもできます。SnapVault ポリシーとスケジュールを指定することもできます。

- トポロジー表示

  作成する関係が視覚的に表示されます。デフォルトでは、トポロジ内のSnapVaultのセカンダリ リソースが強調表示されます。

- 補足情報

  保護関係のセカンダリ リソースを選択できます。

  - 高度なリンク

    [詳細なセカンダリ設定]ダイアログ ボックスを表示します。

  - クラスタ

    保護のセカンダリ ホストとして使用できるクラスタが表示されます。このフィールドは必須です。

  - ストレージ仮想マシン（SVM）

    選択したクラスターで使用可能なSVMを一覧表示します。SVMリストを作成する前に、クラスターを選択する必要があります。この項目は必須です。

  - Aggregate

    選択したSVMで使用可能なアグリゲートの一覧を表示します。アグリゲートリストを作成する前に、クラスターを選択する必要があります。この項目は必須です。アグリゲートリストには、以下の情報が表示されます。

    - 順位

      複数のアグリゲートがデスティネーションの要件をすべて満たす場合、この順位は、次の条件に従ってアグリゲートを表示する優先順位を示します。

      A. プライマリ ボリュームのノードとは異なるノードに配置されているアグリゲートが優先され、障害ドメインの分離が可能になります。
      B. ボリューム数が少ないノード上のアグリゲートが優先され、クラスタ内のノード全体での負荷分散が可能になります。
      C. 他のアグリゲートよりも空きスペースの多いアグリゲートが優先され、容量の分散が可能になります。順位1は、この3つの条件に従っているアグリゲートが最も優先されることを示しま

す。

- アグリゲート名

  アグリゲートの名前

- 使用可能容量
- データ用のアグリゲートで使用できるスペースの量
- リソース プール

  アグリゲートが属するリソース プールの名前

◦ 命名規則

セカンダリ ボリュームに適用されるデフォルトの命名規則を指定します。提供されている命名規則をそのまま使用するか、カスタムの命名規則を作成することができます。命名規則には、%C、%M、%V、%N の属性を使用できます。%C はクラスタ名、%M は SVM 名、%V はソースボリューム、%N はトポロジセカンダリノード名です。

命名規則の入力内容が無効な場合、該当欄は赤色で強調表示されます。「プレビュー名」リンクをクリックすると、入力した命名規則のプレビューが表示され、テキストフィールドに命名規則を入力するとプレビューテキストが動的に更新されます。無効な値を入力すると、プレビュー領域に赤い疑問符で無効な情報が表示されます。関係が作成されると、セカンダリ名に001～999のサフィックスが追加され、プレビュー テキストのnnnがこのサフィックスに置き換わります。001が最初に割り当てられ、002が2番目に割り当てられます（以降も同様）。

- リレーションシップ設定

保護関係で使用される最大転送速度、SnapVaultポリシー、およびSnapVaultスケジュールを指定できます。

◦ 最大転送速度

ネットワークを介してクラスター間でデータが転送される最大速度を指定します。最大転送速度を使用しない場合、関係間のベースライン転送は無制限になります。

◦ SnapVault ポリシー

関係に対するONTAPのSnapVaultポリシーを指定します。デフォルトは「XDPDefault」です。

◦ Create Policy

[SnapVault ポリシーの作成]ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスでは、新しいSnapVaultポリシーを作成して使用できます。

◦ SnapVault スケジュール

関係に対するONTAPのSnapVaultスケジュールを指定します。スケジュールは、「None」、「5min」、「8hour」、「daily」、「hourly」、「weekly」のいずれかに設定できます。デフォルトは「None」で、関係にスケジュールが関連付けられません。スケジュールが設定されていない関係については、ストレージ サービスに属している場合を除き、遅延ステータスの値は報告されません。

◦ スケジュールを作成

[スケジュールの作成]ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスでは、SnapVaultスケジュールを作成できます。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- キャンセル

  選択内容を破棄して、[保護設定]ダイアログ ボックスを閉じます。

- 適用する

  選択項目を適用して保護プロセスを開始します。

Active IQ Unified Manager の「スケジュールの作成」ダイアログボックスを使用する

[スケジュールの作成]ダイアログ ボックスでは、SnapMirror関係とSnapVault関係の転送について、基本的または詳細な保護スケジュールを作成できます。データを頻繁に更新する場合、新しいスケジュールを作成してデータ転送の頻度を増やすことができます。データがあまり変更されない場合は、少ない頻度のスケジュールを作成することもできます。

SnapMirror Synchronous関係にスケジュールを設定することはできません。

- 宛先クラスター

  [保護設定]ダイアログ ボックスの[SnapVault]タブまたは[SnapMirror]タブで選択したクラスタの名前。

- スケジュール名

  スケジュールに付ける名前。スケジュール名には、A～Z、a～z、0～9の文字、および以下の特殊文字のいずれかを使用できます：! @ # $ % ^ & * ( ) _ -.スケジュール名には、以下の文字を含めることはできません：< >.

- 基本編または上級編

  使用するスケジュール モード。

  「基本」モードには次の要素が含まれます。

  - 繰り返し

    スケジュールされた転送が発生する頻度。「毎時」、「毎日」、「毎週」のいずれかを選択できます。

  - 日

    「毎週」の繰り返しを選択した場合に転送が発生する曜日。

◦ Time

「毎日」または「毎週」を選択した場合に転送が発生する時刻。

「詳細」モードには次の要素が含まれます。

◦ 月

カンマで区切った数値のリスト。月を表します。有効な値は0～11です。0は1月を表し、以降も同様です。この要素はオプションです。このフィールドを空にすると、毎月転送が発生します。

◦ Days

月の日付を表す、カンマで区切られた数値リスト。有効な値は1から31までです。この要素はオプションです。このフィールドを空白のままにすると、その月の毎日転送が行われることを意味します。

◦ 曜日

カンマで区切った数値のリスト。曜日を表します。有効な値は0～6です。0は日曜を表し、以降も同様です。この要素はオプションです。このフィールドを空にすると、指定した週に毎日転送が発生します。曜日を指定し、日にちを指定していない場合は、毎日ではなく指定した曜日にのみ転送が発生します。

◦ 時間

カンマで区切った数値のリスト。1日のうちの時間数を表します。有効な値は0～23です。0は午前0時を表します。この要素はオプションです。

◦ 分

1時間あたりの分数を表す、カンマ区切りの数値リスト。有効な値は0から59までです。この要素は必須です。

Active IQ Unified ManagerでCreate SnapMirror Policyダイアログボックスを使用します

[SnapMirror ポリシーの作成]ダイアログ ボックスでは、ポリシーを作成してSnapMirror転送の優先度を設定できます。ポリシーを使用することで、ソースからデスティネーションへの転送効率を最大化できます。

- 宛先クラスター

  [保護設定]ダイアログ ボックスの[SnapMirror]タブで選択したクラスタの名前。

- 宛先**SVM**

  [保護設定]ダイアログ ボックスの[SnapMirror]タブで選択したSVMの名前。

- ポリシー名

  新しいポリシーに指定する名前。ポリシー名には、A～Z、a～z、0～9、ピリオド（.）、ハイフン（-）、

およびアンダースコア（_）を使用できます。

- 転送優先度

  非同期操作の転送を実行する優先順位。[標準]または[低]を選択できます。転送の優先順位として「標準」を指定したポリシーを使用する関係の転送は、「低」を指定したポリシーを使用する関係の転送の前に実行されます。

- コメント

  オプションのフィールド。ポリシーに関するコメントを追加できます。

- 転送再開

  転送が中止処理または何らかの障害（ネットワークの停止など）によって中断されたときに行う再開のアクションを示します。次のいずれかを選択できます。

  - Always

    転送を再開する前に新しいSnapshotコピーを作成し、既存のSnapshotコピーが存在する場合は、チェックポイントから転送を再開して、そのあとに新しく作成したSnapshotコピーに基づく差分転送を実行するように指定します。

  - never

    中断された転送を再開しないように指定します。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- キャンセル

  選択内容を破棄して、[保護設定]ダイアログ ボックスを閉じます。

- 適用する

  選択項目を適用して保護プロセスを開始します。

Active IQ Unified Manager の「SnapVault ポリシーの作成」ダイアログボックスを使用する

[SnapVault ポリシーの作成]ダイアログ ボックスでは、ポリシーを作成してSnapVault転送の優先度を設定できます。ポリシーを使用することで、プライマリからセカンダリ ボリュームへの転送効率を最大化できます。

- 宛先クラスター

  [保護設定]ダイアログ ボックスの[SnapVault]タブで選択したクラスタの名前。

- 宛先**SVM**

[保護設定]ダイアログ ボックスの[SnapVault]タブで選択したSVMの名前。

- ポリシー名

  新しいポリシーに指定する名前。ポリシー名には、A～Z、a～z、0～9、ピリオド（.）、ハイフン（-）、およびアンダースコア（_）を使用できます。

- 転送優先度

  転送を実行する優先度。[標準]または[低]を選択できます。転送の優先順位として「標準」を指定したポリシーを使用する関係の転送は、「低」を指定したポリシーを使用する関係の転送の前に実行されます。デフォルト設定は「標準」です。

- コメント

  オプションのフィールド。SnapVaultポリシーに関する最大255文字のコメントを追加できます。

- アクセス時間を無視

  アクセス時間だけが変更されたファイルを差分転送で無視するかどうかを指定します。

- レプリケーション ラベル

  ONTAPによって選択されたSnapshotコピーに関連付けられているルールをテーブルに表示します。このSnapshotコピーのポリシーには特定のレプリケーション ラベルが指定されています。次の情報とアクションを使用することもできます。

  - コマンド ボタン

    各コマンド ボタンを使用して次の操作を実行できます。

    - 追加

      Snapshotコピー ラベルと保持数を作成できます。

    - 保持数の編集

      既存のSnapshotコピー ラベルの保持数を変更できます。保持数は1～251の数値にする必要があります。すべてのルールのすべての保持数の合計は251個以下でなければなりません。

    - 削除

      既存のSnapshotコピー ラベルを削除できます。

  - Snapshot コピー ラベル

    Snapshotコピー ラベルが表示されます。同じローカルSnapshotコピー ポリシーを使用する1個以上のボリュームを選択すると、ポリシー内の各ラベルのエントリが表示されます。2つ以上のローカルSnapshotコピー ポリシーを使用する複数のボリュームを選択すると、すべてのポリシーのすべてのラベルがテーブルに表示されます。

  - スケジュール

各スナップショットコピーラベルに関連付けられたスケジュールを表示します。ラベルに複数のスケジュールが関連付けられている場合、そのラベルのスケジュールはカンマ区切りのリストで表示されます。同じラベルを持つ複数のボリュームを選択した場合でも、スケジュールが異なる場合は、選択したボリュームに複数のスケジュールが関連付けられていることを示すために、スケジュールに「Various」と表示されます。

- デスティネーションの保持数

  SnapVaultセカンダリに保持されていて、指定したラベルを持つSnapshotコピーの数が表示されます。複数のスケジュールを使用するラベルの保持数として、各ラベルとスケジュールのペアの保持数の合計が表示されます。2つ以上のローカルSnapshotコピー ポリシーを使用する複数のボリュームを選択すると、保持数は空になります。

Active IQ Unified Manager で保護関係を編集する

既存の保護関係を編集して、最大転送速度、保護ポリシー、保護スケジュールを変更することができます。

デスティネーション情報

- 宛先クラスター

  選択したデスティネーション クラスタの名前です。

- 宛先**SVM**

  選択されたSVMの名前

- リレーションシップ設定

  保護関係で使用する最大転送速度、SnapMirrorポリシー、およびスケジュールを指定できます。

  - 最大転送速度

    ネットワークを介してクラスタ間でベースライン データを転送する最大速度を示します。選択すると、指定した値までにネットワーク帯域幅が制限されます。数値を入力してから、KBps（1秒あたりのキロバイト数）、MBps（1秒あたりのメガバイト数）、GBps（1秒あたりのギガバイト数）、TBps（1秒あたりのテラバイト数）のいずれかの単位を選択できます。最大転送速度は1KBps～4TBpsの範囲で指定する必要があります。最大転送速度を指定しない場合は、関係間でベースライン転送が制限されません。この設定は、プライマリ クラスタとセカンダリ クラスタが同じ場合は無効になります。

  - SnapMirror ポリシー

    関係のONTAP SnapMirrorスケジュールを示します。デフォルトはDPDefaultです。

  - Create Policy

    [SnapMirror ポリシーの作成]ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスでは、新しいSnapMirrorポリシーを作成して使用できます。

  - SnapMirror スケジュール

関係のONTAP SnapMirrorスケジュールを示します。スケジュールは、「None」、「5min」、「8hour」、「daily」、「hourly」、「weekly」のいずれかに設定できます。デフォルトは「None」で、関係にスケジュールが関連付けられません。スケジュールが設定されていない関係については、ストレージ サービスに属している場合を除き、遅延ステータスの値は報告されません。

◦ スケジュールを作成

[スケジュールの作成]ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスでは、新しいSnapMirrorスケジュールを作成できます。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- キャンセル

  選択内容を破棄して、[保護設定]ダイアログ ボックスを閉じます。

- 送信

  選択内容を適用して、[関係の編集]ダイアログ ボックスを閉じます。

Active IQ Unified Manager の「初期化/更新」ダイアログボックスを使用する

[初期化 / 更新]ダイアログ ボックスでは、新しい保護関係で最初のベースライン転送を実行できます。また、すでに初期化された関係でスケジュールされていない増分更新を手動で実行する場合は、関係を更新できます。

転送オプションタブ

[転送オプション]タブでは、初期化での転送の優先順位や、転送時に使用される帯域幅を変更できます。

- 転送優先度

  転送を実行する優先度。[標準]または[低]を選択できます。関係のポリシーで転送の優先順位「標準」が指定されている場合、その関係は転送の優先順位「低」が指定された関係より先に実行されます。デフォルトでは「標準」が選択されます。

- 最大転送速度

  ネットワークを介してクラスター間でデータが転送される最大速度を指定します。最大転送速度を使用しない場合、関係間のベースライン転送は無制限になります。最大転送速度が異なる複数の関係を選択する場合は、次に示す最大転送速度設定のいずれかを指定できます。

  ◦ 個々の関係のセットアップまたは編集で指定した値を使用する

  これを選択すると、各関係の作成時または編集時に指定された最大転送速度が、初期化処理と更新処理で使用されます。このフィールドは、転送速度が異なる複数の関係を初期化または更新する場合にのみ選択できます。

◦ Unlimited

関係間の転送に帯域幅の制限がないことを示します。このフィールドは、転送速度が異なる複数の関係を初期化または更新する場合にのみ選択できます。

◦ 帯域幅を制限

選択すると、指定した値までにネットワーク帯域幅が制限されます。数値を入力してから、KBps（1秒あたりのキロバイト数）、MBps（1秒あたりのメガバイト数）、GBps（1秒あたりのギガバイト数）、TBps（1秒あたりのテラバイト数）のいずれかの単位を選択できます。最大転送速度は1KBps～4TBpsの範囲で指定する必要があります。

[ソース **Snapshot** コピー]タブ

[ソース Snapshot コピー]タブには、ベースライン転送に使用されるソースSnapshotコピーに関する次の情報が表示されます。

- ソースボリューム

  対応するソース ボリュームの名前が表示されます。

- 宛先ボリューム

  選択したデスティネーション ボリュームの名前が表示されます。

- ソースタイプ

  ボリューム タイプが表示されます。タイプは、[Read/write]または[Data Protection]のいずれかです。

- スナップショットコピー

  データ転送に使用されるSnapshotコピーが表示されます。Snapshotコピーの値をクリックすると、[ソース Snapshot コピーの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでは、使用する保護関係のタイプおよび実行する処理に応じて、転送に使用するSnapshotコピーを選択できます。データ保護タイプのソースについては、別のSnapshotコピーを指定できません。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- キャンセル

  選択内容を破棄して、[初期化 / 更新]ダイアログ ボックスを閉じます。

- 送信

  選択内容を保存して、初期化ジョブまたは更新ジョブを開始します。

Active IQ Unified Manager の再同期ダイアログボックスを使用する

[再同期]ダイアログ ボックスでは、SnapMirror関係やSnapVault関係を解除してデスティネーションが読み書き可能ボリュームになったあとに、その関係のデータを再同期できます。再同期は、必要な共通のSnapshotコピーがソース ボリュームで削除されたためにSnapMirrorやSnapVaultの更新が失敗する場合にも実行することがあります。

再同期オプションタブ

[再同期オプション]タブでは、再同期する保護関係の転送の優先順位と最大転送速度を設定できます。

- 転送優先度

  転送を実行する優先度。[標準]または[低]を選択できます。関係のポリシーで転送の優先順位「標準」が指定されている場合、その関係は転送の優先順位「低」が指定された関係より先に実行されます。

- 最大転送速度

  ネットワークを介してクラスター間でデータが転送される最大速度を指定します。このオプションを選択すると、ネットワーク帯域幅は指定した値に制限されます。数値を入力してから、キロバイト/秒（KBps）、メガバイト/秒（MBps）、ギガバイト/秒（GBps）、またはTBpsを選択できます。最大転送速度を使用しない場合、関係間のベースライン転送は無制限になります。

[ソース Snapshot コピー]タブ

[ソース Snapshot コピー]タブには、ベースライン転送に使用されるソースSnapshotコピーに関する次の情報が表示されます。

- ソースボリューム

  対応するソース ボリュームの名前が表示されます。

- 宛先ボリューム

  選択したデスティネーション ボリュームの名前が表示されます。

- ソースタイプ

  ボリューム タイプ（「読み取り / 書き込み」または「データ保護」）が表示されます。

- スナップショットコピー

  データ転送に使用されるSnapshotコピーが表示されます。Snapshotコピーの値をクリックすると、[ソース Snapshot コピーの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでは、使用する保護関係のタイプおよび実行する処理に応じて、転送に使用するSnapshotコピーを選択できます。

コマンド ボタン

- 送信

再同期処理を開始し、再同期ダイアログボックスを閉じます。

- キャンセル

  選択内容をキャンセルして、[再同期]ダイアログ ボックスを閉じます。

Active IQ Unified Manager の「ソーススナップショットコピーの選択」ダイアログボックスを使用します

[ソース Snapshot コピーの選択]ダイアログ ボックスを使用して、保護関係間でデータを転送するためのSnapshotコピーを選択するか、デフォルトの動作を選択します。選択するオプションは、関係を初期化、更新、再同期するかどうか、および関係がSnapMirrorとSnapVaultのどちらであるかによって異なります。

デフォルト

SnapVault関係およびSnapMirror関係の初期化、更新、転送の再同期に使用されるSnapshotコピーを決定する際のデフォルトの動作を選択できます。

SnapVault転送を実行する場合、各処理のデフォルトの動作は次のとおりです。

処理	ソースが読み取り / 書き込みの場合のデフォルト **SnapVault** の動作	データ保護（**DP**）がソースである場合のデフォルト **SnapVault** の動作
初期化	新しいSnapshotコピーを作成して転送します。	最後にエクスポートされたSnapshotコピーを転送します。
更新	ポリシーの指定に従って、ラベルが設定されたSnapshotコピーだけを転送します。	最後にエクスポートされたSnapshotコピーを転送します。
再同期	最も新しい共通のSnapshotコピーのあとに作成され、ラベルが設定されたすべてのSnapshotコピーを転送します。	ラベルが設定された最新のSnapshotコピーを転送します。

SnapMirror転送を実行する場合、各処理のデフォルトの動作は次のとおりです。

処理	デフォルトの**SnapMirror**の動作	デフォルトの **SnapMirror** の動作（関係が **SnapMirror** から **SnapMirror** へのカスケードの **2** 番目のホップである場合）
初期化	新しいSnapshotコピーを作成して、そのSnapshotコピーおよびその前に作成されたすべてのSnapshotコピーを転送します。	ソースからSnapshotコピーをすべて転送します。

処理	デフォルトの**SnapMirror**の動作	デフォルトの **SnapMirror** の動作（関係が **SnapMirror** から **SnapMirror** へのカスケードの **2** 番目のホップである場合）
更新	新しいSnapshotコピーを作成して、そのSnapshotコピーおよびその前に作成されたすべてのSnapshotコピーを転送します。	すべてのSnapshotコピーを転送します。
再同期	新しいSnapshotコピーを作成して、ソースからSnapshotコピーをすべて転送します。	セカンダリ ボリュームから3番目のボリュームにすべてのSnapshotコピーを転送し、最も新しい共通のSnapshotコピーの作成後に追加されたデータを削除します。

既存の **Snapshot** コピー

リストから既存のSnapshotコピーを選択できます（Snapshotコピーの選択が許可されている場合）。

- スナップショットコピー

  転送用に選択可能な既存のSnapshotコピーが表示されます。

- 作成日

  Snapshotコピーが作成された日時が表示されます。最新のSnapshotコピーがリストの先頭に表示されます。

SnapVault転送の実行時に、ソースからデスティネーションに転送する既存のSnapshotコピーを選択する場合、各処理の動作は次のようになります。

処理	**SnapVault** スナップショットコピーを指定した場合の動作	**SnapVault** カスケードで **Snapshot**コピーを指定した場合の動作
初期化	指定したSnapshotコピーを転送します。	データ保護ボリュームに対しては、ソースSnapshotコピーの選択がサポートされません。
更新	指定したSnapshotコピーを転送します。	データ保護ボリュームに対しては、ソースSnapshotコピーの選択がサポートされません。
再同期	選択したSnapshotコピーを転送します。	データ保護ボリュームに対しては、ソースSnapshotコピーの選択がサポートされません。

SnapMirror転送の実行時に、ソースからデスティネーションに転送する既存のSnapshotコピーを選択する場合、各処理の動作は次のようになります。

処理	**SnapMirror** スナップショットコピーを指定した場合の動作	**SnapMirror**カスケードでスナップショットコピーを指定した場合の動作
初期化	ソース上のすべてのSnapshotコピー（指定したSnapshotコピーまで）を転送します。	データ保護ボリュームに対しては、ソースSnapshotコピーの選択がサポートされません。
更新	ソース上のすべてのSnapshotコピー（指定したSnapshotコピーまで）を転送します。	データ保護ボリュームに対しては、ソースSnapshotコピーの選択がサポートされません。
再同期	ソースからすべてのSnapshotコピー（選択したSnapshotコピーまで）を転送し、最も新しい共通のSnapshotコピーの作成後に追加されたデータを削除します。	データ保護ボリュームに対しては、ソースSnapshotコピーの選択がサポートされません。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 送信

  選択内容を送信して、[ソース Snapshot コピーの選択]ダイアログ ボックスを閉じます。

- キャンセル

  選択内容を破棄して、[ソース Snapshot コピーの選択]ダイアログ ボックスを閉じます。

Active IQ Unified Manager での逆再同期

ソース ボリュームが機能しなくなったために保護関係を解除して、デスティネーションを読み書き可能なボリュームにした場合は、逆再同期によって関係の方向を反転させて、デスティネーションを新たなソースに、ソースを新たなデスティネーションにすることができます。

災害によって保護関係のソース ボリュームが機能しなくなった場合は、ソースの修理や交換、ソースの更新、および関係の再確立を行う間、デスティネーション ボリュームを読み書き可能に変換してデータの提供を継続することができます。逆方向の再同期操作を実行すると、ソース上のデータのうち、共通 Snapshot コピー上のデータよりも新しいデータは削除されます。

逆再同期前

逆再同期処理を実行する前の関係のソースとデスティネーションが表示されます。

- ソースボリューム

  逆再同期処理を実行する前のソース ボリュームの名前と場所。

- 宛先ボリューム

逆再同期処理を実行する前のデスティネーション ボリュームの名前と場所。

逆再同期後

逆再同期処理を実行したあとの関係のソースとデスティネーションが表示されます。

- ソースボリューム

  逆再同期処理を実行したあとのソース ボリュームの名前と場所。

- 宛先ボリューム

  逆再同期処理を実行したあとのデスティネーション ボリュームの名前と場所。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次の操作を実行できます。

- 送信

  逆再同期処理を開始します。

- キャンセル

  逆再同期処理を開始せずに[逆再同期]ダイアログ ボックスを閉じます。

関係を表示する：Active IQ Unified Manager のすべての関係ビュー

「関係：すべての関係」ビューには、ストレージシステム上の保護関係に関する情報が表示されます。

デフォルトでは、「関係」ページにアクセスすると、ボリュームとストレージ VM の両方について、最上位の保護関係を含むレポートが表示されます。ページ上部のコントロールを使用すると、特定のビューを選択したり、検索を実行して特定のオブジェクトを見つけたり、フィルタを作成して適用して表示されるデータのリストを絞り込んだり、ページ上の列を追加/削除/並べ替えたり、ページ上のデータを.csv、.pdf、または.xlsxファイルにエクスポートしたりできます。ページをカスタマイズした後、結果をカスタムビューとして保存し、このデータのレポートを定期的に生成してメールで送信するようにスケジュール設定できます。デフォルトでは、「関係」メニューを選択すると、データセンター内のボリュームとストレージ VM の両方の保護関係を含むレポートが表示されます。「フィルタ」オプションを使用すると、ボリュームのみ、ストレージVMのみなど、選択したストレージシステムのみを表示できます。同じレポートが「ストレージ」ページにも表示され、選択されたストレージエンティティのみに適用されます。ボリュームまたはストレージVMの関係を表示する場合は、「ストレージ」>「ボリューム」>「関係：すべての関係」ページにアクセスするか、「保護」>「関係」>「関係：すべての関係」にアクセスし、「フィルタ」の「関係オブジェクトタイプ」オプションを使用して、ボリュームまたはストレージVMのデータのみをフィルタリングします。

すべての保護関係を一覧表示する関係ページには、宛先クラスタの **System Manager**で表示 というリンクがあり、ONTAP System Managerで同じオブジェクトを表示できます。

- ステータス

保護関係の現在のステータスが表示されます。

ステータスはエラー（）、警告（）、またはOK（）のいずれかです。

- ソースストレージ**VM**

  ソースSVMの名前が表示されます。SVM名をクリックすると、ソースSVMの詳細が表示されます。

  クラスタ内のSVMがUnified Managerインベントリにまだ追加されていない場合、またはクラスタの前回の更新後に作成された場合、このフィールドは空になります。SVMの存在を確認するか、またはクラスタで再検出を実行してリソースのリストを更新する必要があります。

- ソース

  選択内容に基づいて、保護されているソース ボリュームまたはソースStorage VMが表示されます。ソース ボリュームまたはStorage VMの名前をクリックすると、それらの詳細を表示できます。

  メッセージ `Resource-key not discovered`が表示される場合、ボリュームがクラスター上に存在しているものの、まだUnified Managerのインベントリに追加されていないか、ボリュームがクラスターの最後の更新後に作成されたことを示している可能性があります。ボリュームが存在することを確認するか、クラスター上で再検出を実行してリソースのリストを更新する必要があります。

- 宛先ストレージ**VM**

  デスティネーションSVMの名前が表示されます。SVM名をクリックすると、デスティネーションSVMの詳細が表示されます。

- 宛先

  選択内容に基づいて、デスティネーション ボリュームまたはStorage VMの名前が表示されます。デスティネーション ボリュームまたはStorage VMの名前をクリックすると、それぞれのオブジェクトの詳細を表示できます。

- 関係オブジェクトタイプ

  関係で使用されているオブジェクトのタイプ（Storage VM、ボリューム、整合性グループなど）が表示されます。整合性グループ関係にあるオブジェクトの場合、関係のソースとデスティネーションに整合性グループが表示され、クリックすると[LUN]ページに移動して関係を確認できます。

- ポリシー

  SnapMirror関係の保護ポリシーの名前が表示されます。ポリシーの名前をクリックすると、そのポリシーに関連付けられた詳細について次の情報を確認できます。

  - 転送の優先順位

    非同期操作の転送を実行する優先度を指定します。転送の優先順位は[標準]または[低]です。優先度が[標準]の転送は、優先度が[低]の転送よりも先に実行されます。デフォルトは[標準]です。

  - アクセス時間を無視

    SnapVault関係にのみ適用されます。アクセス時間だけが変更されたファイルを差分転送で無視するかどうかを指定します。値はTrueまたはFalseのいずれかです。デフォルトはFalseです。

- 関係が同期されていない場合

  同期関係を同期できない場合にONTAPで実行する処理を指定します。StrictSync関係の場合、セカンダリ ボリュームとの同期に失敗すると、プライマリ ボリュームへのアクセスが制限されます。Sync関係の場合、セカンダリとの同期に失敗しても、プライマリへのアクセスは制限されません。

- 最大試行回数

  SnapMirror関係の手動またはスケジュールされた各転送を試行する最大回数を指定します。デフォルトは8です。

- Comments

  選択したポリシーに関するコメントを示すテキスト フィールドが表示されます。

- SnapMirror ラベル

  Snapshotコピー ポリシーに関連付けられている最初のスケジュールのSnapMirrorラベルを指定します。SnapMirrorラベルは、SnapshotコピーをSnapVaultデスティネーションにバックアップするときに、SnapVaultサブシステムによって使用されます。

- 保持設定

  バックアップを保持する期間を、バックアップの時刻または数で指定します。

- 実際のSnapshotコピー

  このボリューム上の、指定したラベルと一致するSnapshotコピーの数を指定します。

- Snapshotコピーを保持

  ポリシーの上限に達した場合でも自動的に削除されないSnapVault Snapshotコピーの数を指定します。値はTrueまたはFalseのいずれかです。デフォルトはFalseです。

- 保持の警告のしきい値

  Snapshotコピー数の制限を指定します。この数に達すると、保持数の上限に近づいていることを通知する警告が送信されます。

- 遅延時間

  ミラーのデータがソースより遅延している時間が表示されます。

  遅延時間は、StrictSync関係については0秒またはそれに近い値になります。

- ラグ状態

  管理対象の関係の遅延ステータスと、スケジュールが関連付けられている管理対象外の関係の遅延ステータスが表示されます。遅延ステータスは次のいずれかになります。

  - エラー

    遅延時間が遅延エラーしきい値と同じか、それを上回っています。

- 警告

  遅延時間が遅延警告しきい値と同じか、それを上回っています。

- OK

  遅延時間が正常範囲内です。

- 該当なし

  同期関係については、スケジュールを設定できないため、遅延ステータスは適用されません。

- 最終更新成功

  SnapMirrorまたはSnapVaultの処理に最後に成功した時刻が表示されます。

  同期関係については、前回の更新成功日時は適用されません。

- コンスティチュエント関係

  選択したオブジェクトにボリュームが含まれているかどうかが表示されます。

- 関係の種類

  ボリュームを複製するために使用される関係タイプが表示されます。次の関係タイプがあります。

  - 非同期ミラー
  - 非同期バックアップ
  - 非同期MirrorVault
  - StrictSync
  - 同期

- 転送状況

  保護関係の転送ステータスが表示されます。転送ステータスは、次のいずれかです。

  - 中止中

    SnapMirror転送が有効になっていますが、転送を中止する処理（チェックポイントの削除など）を実行中です。

  - 確認中

    デスティネーション ボリュームの診断チェックを実行中で、実行中の転送はありません。

  - 最終処理中

    SnapMirror転送が有効になっています。現在SnapVault増分転送の転送後のフェーズです。

  - アイドル

転送が有効になっていますが、実行中の転送はありません。

- 同期

  同期関係にある2つのボリュームのデータが同期されています。

- 非同期

  デスティネーション ボリュームのデータがソース ボリュームと同期されていません。

- 準備中

  SnapMirror転送が有効になっています。現在SnapVault増分転送の転送前のフェーズです。

- キュー登録済み

  SnapMirror転送が有効になっています。実行中の転送はありません。

- 休止

  SnapMirror転送が無効になっています。転送中ではありません。

- 休止中

  SnapMirror転送を実行中です。増分転送が無効になっています。

- 転送中

  SnapMirror転送が有効になっており、転送を実行中です。

- 移行中

  ソース ボリュームからデスティネーション ボリュームへの非同期のデータ転送が完了し、同期処理への移行が開始されています。

- 待機中

  SnapMirror転送は開始されていますが、一部の関連タスクのキュー登録を待っています。

- 最終転送期間

  前回のデータ転送が完了するまでの時間が表示されます。

  StrictSync関係については、転送が同時に行われるため、転送時間は適用されません。

- 最終転送サイズ

  前回のデータ転送のサイズがバイト単位で表示されます。

  StrictSync関係については、転送サイズは適用されません。

- メディエーター

メディエーターのステータスが表示されます。

- 該当なし

  クラスタでSnapMirrorアクティブ同期がサポートされていません。

- 未設定

  メディエーターが設定されていないか、設定されているがUnified Managerにデスティネーション クラスタのみが追加されていてソース クラスタが追加されていません。

- メディエーターの IP アドレス

  メディエーターが設定されていて、ソースとデスティネーションの両方のクラスタがUnified Managerに追加されている場合に表示されます。

- 状態

  SnapMirror関係またはSnapVault関係の状態が表示されます。「未初期化」、「SnapMirror 済み」、「切断」のいずれかです。ソース ボリュームを選択した場合は、関係の状態は適用されず表示されません。

- 関係の健全性

  クラスタの関係の健全性が表示されます。

- 異常の理由

  関係が健全な状態でない理由が表示されます。

- 転送優先度

  転送を実行する優先度が表示されます。転送の優先順位は[標準]または[低]です。優先度が[標準]の転送は、優先度が[低]の転送よりも先に実行されます。

  同期関係については、すべての転送が同じ優先度で扱われるため、転送の優先度は適用されません。

- スケジュール

  関係に割り当てられている保護スケジュールの名前が表示されます。

  同期関係については、スケジュールは適用されません。

- バージョン柔軟レプリケーション

  「はい」、「はい（バックアップ オプションあり）」、「なし」のいずれかが表示されます。

- ソースクラスター

  SnapMirror関係のソース クラスタのFQDN、短縮名、またはIPアドレスが表示されます。

- ソースクラスタのFQDN

  SnapMirror関係のソース クラスタの名前が表示されます。

- ソースノード

  ボリュームの場合はSnapMirror関係のソース ノード名のリンクが、Storage VMまたは整合性グループの場合はSnapMirror関係のノード数のリンクが表示されます。

カスタム ビューでノード名のリンクをクリックすると、SnapMirrorアクティブ同期関係に属する整合性グループのボリュームについて、ストレージ オブジェクトの保護を表示および拡張できます。

ノード数リンクをクリックすると、該当する関係に関連付けられているノードをリストするノード ページが表示されます。ノード数が0の場合、関係に関連付けられているノードがないため値は表示されません。

- 宛先ノード

  ボリュームのSnapMirror関係のデスティネーション ノード名のリンクの名前が表示されます。オブジェクトがStorage VMまたは整合性グループの場合は、SnapMirror関係のノード数のリンクが表示されます。

  ノード数リンクをクリックすると、該当する関係に関連付けられているノードをリストするノード ページが表示されます。ノード数が0の場合、関係に関連付けられているノードがないため値は表示されません。

- 宛先クラスター

  SnapMirror関係のデスティネーション クラスタの名前が表示されます。

- 宛先クラスタの**FQDN**

  SnapMirror関係のデスティネーション クラスタのFQDN、短縮名、またはIPアドレスが表示されます。

- 保護元

  さまざまな関係が表示されます。この列には、クラスタおよびStorage Virtual Machineのボリュームと整合性グループの関係が次の順序で表示されます。

  - SnapMirror
  - Storage VM DR
  - SnapMirror、ストレージVM DR
  - 整合性グループ
  - SnapMirror、コンシステンシーグループ。

関連情報

- **Relationship**：**MetroCluster** ビューの詳細については、"MetroCluster構成の監視"を参照してください。
- 「関係性：過去1か月間の転送状況」の表示に関する情報については、"関係：過去 1 ヶ月の転送ステータス表示"を参照してください。
- 「関係：すべての関係」ビューに関する情報については、"関係：過去1か月間の転送速度ビュー"を参照してください。

Active IQ Unified Manager で過去 1 か月の転送状況ビューを表示する

「関係性：過去1か月間の転送ステータス」ビューを使用すると、非同期関係にあるボリュームとStorage VMの転送傾向を一定期間にわたって分析できます。このページには、転送が成功したか失敗したかも表示されます。

ページ上部のコントロールを使用すると、特定のオブジェクトを検索したり、フィルタを作成して適用し、表示されるデータのリストを絞り込んだり、ページ上の列を追加/削除/並べ替えたり、ページ上のデータを `.csv`、 `.pdf`、または `.xlsx`ファイルにエクスポートしたりできます。ページをカスタマイズした後、結果をカスタムビューとして保存し、このデータのレポートを定期的に生成してメールで送信するようにスケジュール設定できます。「フィルタ」オプションを使用すると、ボリュームのみ、またはStorage VMsのみなど、選択したストレージシステムのみを表示できます。同じレポートがストレージページにも表示され、選択されたストレージエンティティのみに適用されます。たとえば、ボリュームの関係を表示したい場合は、「ストレージ」 > 「Storage VMs」 > 「関係性：過去1か月の転送ステータス」メニュー、または「保護」 > 「関係性」 > 「関係性：過去1か月の転送ステータス」メニューのいずれかから、Storage VMsの「関係性：過去1か月の転送ステータス」レポートにアクセスし、「フィルタ」を使用してボリュームのデータのみを表示できます。

- ソースボリューム

  ソース ボリューム名が表示されます。

- 宛先ボリューム

  デスティネーション ボリューム名が表示されます。

- 操作タイプ

  ボリューム転送のタイプが表示されます。

- 操作結果

  ボリューム転送が成功したかどうかが表示されます。

- 転送開始時間

  ボリューム転送の開始時間が表示されます。

- 転送終了時刻

  ボリューム転送の終了時間が表示されます。

- 転送時間

  ボリューム転送が完了するまでの所要時間（時間）が表示されます。

- 転送サイズ

  転送されたボリュームのサイズ（MB）が表示されます。

- ソース**SVM**

ストレージ仮想マシン（SVM）名を表示します。

- ソースクラスター

  ソース クラスタ名が表示されます。

- 宛先**SVM**

  宛先SVM名を表示します。

- 宛先クラスター

  デスティネーション クラスタ名が表示されます。

関連情報

- 「関係：すべての関係」ビューの詳細については、"関係：すべての関係を表示"を参照してください。
- *関係：MetroCluster*ビューに関する情報については、"MetroCluster構成の監視"を参照してください。
- 「関係：すべての関係」ビューに関する情報については、"関係：過去1か月間の転送速度ビュー"を参照してください。

関係の表示：過去 **1** か月の転送レートビュー（**Active IQ Unified Manager**）

「関係：過去 1 か月間の転送速度」ビューを使用すると、非同期関係にあるボリュームについて、日々転送されるデータ量を分析できます。また、このページには、毎日の転送に関する詳細およびボリュームとStorage VMの転送処理を完了するために必要な時間が表示されます。

ページ上部のコントロールを使用すると、特定のオブジェクトを検索したり、フィルターを作成して適用して表示データのリストを絞り込んだり、ページ上の列を追加/削除/並べ替えたり、ページ上のデータを.csv、.pdf、または.xlsxファイルにエクスポートしたりできます。ページをカスタマイズした後、結果をカスタムビューとして保存し、このデータのレポートを定期的に生成してメールで送信するようにスケジュール設定できます。例えば、ボリューム間の関係性を表示したい場合は、ストレージ > ボリューム > 関係性：過去 **1** か月の転送レート メニューにアクセスするか、保護 > 関係性 > 関係性：過去 **1** か月の転送レート メニューにアクセスし、フィルタ を使用してボリュームのデータのみを表示できます。

- 合計転送サイズ

  ボリューム転送の合計サイズ（GB）が表示されます。

- 日

  ボリューム転送が開始された日にちが表示されます。

- 終了時刻

  ボリューム転送が終了した日時が表示されます。

関連情報

- *関係：MetroCluster*ビューに関する情報については、"MetroCluster構成の監視"を参照してください。
- 「関係性：過去1か月間の転送状況」の表示に関する情報については、"関係：過去 1 ヶ月の転送ステータス表示"を参照してください。
- 「関係：すべての関係」ビューに関する情報については、"関係：過去1か月間の転送速度ビュー"を参照してください。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。